

STOP THE CORONAVIRUS



### 習志野シニアアンサンブル 代表 戸塚嘉明

習志野SEでは3月初めより10月末現在まで、コロナ禍のため練習は一度もしておりません。中止の期間中、夏に公民館が再開されましたが、今まで使用していた音楽室だけは密室状態の為使用禁止となりました。運営委員会を開き今後の練習方法として、管楽器を除いた少人数での練習も検討したのですが全員ができる条件が揃うまで再開しないとの結論になりました。

10月15日に公民館の使用規則が緩和され、管楽器がある場合一人当たり4平方m以上確保することで部屋の使用が許可されました。ただ36名全員を収容し、音が漏れても大丈夫な部屋は市内には1、2か所しかなく、毎回部屋を確保するのは困難と判断、年内は練習中止を継続することに決定しました。

今後もう一段階使用規制が緩和されたら、来年以降改めて協議することとしました。併せてイベント、ボランティア活動、定演等今年度は中止、延期することにしてます。

### 湘南リラフィル・同弦楽アンサンブル 9月より通常活動を再開しました

湘南リラフィルは60名、弦楽アンサンブルは30名の団員がコロナにより今年3月より半年間休眠しましたが、活動を再開し11月には90%の団員が復帰しオーケストラ音楽を楽しんでいます。

新配置(写真)は現時点でのプロオケの標準である管楽器1.5M、弦楽器1.2の間隔をとり、管楽器はマウスシールド着用(フルート)など個別の対策、弦もマスクでの演奏です。客席も使った演奏ですが、会場の十分な広さと優れた音響に助けられ、ディスタンスの不便やハンディーは感じられません。(現在は写真のビニールフェンスは外してます)

曲目はリラフィルが、ラローのスペイン交響曲(写真:ソロは団専門演奏員の永瀬成美)を終え、現在はベートーベンの運命の他、チャイコフスキーの白鳥の湖、シベリウスのフィンランディアなど大型曲を楽しんでいます。弦楽アンサンブルはアレクサンドロフの変奏曲を終え12月よりシューベルトの大作「死と乙女」(マーラー編)に取り組みます。今回判ったことは、プロアマ問わず演奏に対する意欲願望は非常に強いという事でした。現在大型オケは場



所の関係などで活動中止の所もあるようですが、当団は感染対策の上活動していますので皆様の参加を歓迎します。見学だけでも結構です。詳細はホームページ<https://lyra-phil.com/>を参照下さい。

団代表 中島良能 (問合せ090-8345-6050)

### 近況報告 船橋シニアアンサンブル 代表 穴倉和夫

定期演奏会は今年の10月予定でしたがキャンセルしました。来年秋予約するつもりです。訪問演奏はすべてキャンセル。これからの練習の見通しは7月中旬まで管楽器を除くなら許可されていますが、10月に管楽器もコロナ対策を厳重にして「OK」でした。普段の練習がいかに貴重なものだったか!6月に定期演奏のプログラムのなかで、パート別発表がありますが、管楽器を除いて三咲公民館の講堂(定員240人コロナ対策定員102人)(普段は音楽室定員70人、コロナ対策定員40人)で6月24日に行いました。

開始時間:12時 練習場所:講堂

①お互いの近況報告、②パート別練習 1.「乙女の祈り」マンドリン、ギター 2.「魅惑のワルツ」弦楽、ピアノ 3.「私のお気に入り」キーボード、ベース、打楽器

(「見上げてごらん夜の星を」フルート&グロッケン、七夕さま」クラリネット&サクソ)は管楽器も練習できるようになったとき)

9月2日に何しろ集まろう、と言うことで三咲公民館の音楽室に集合しました。その時指揮者の脇田先生のはからいで、『演奏にも役立てよう!音楽ミニ講座』 第一弾「調性について」を30分くらい講演して頂きました。後は今後どのように練習していこうか?という話し合いがもたれ。最終的には月2回、公民館と八千代市にある明治ゴルフの会議室(こちらは管楽器も入れて)で行う、また船橋文化ホールの舞台だけを借りて行うなど、いろいろな考え、コロナへの感じ方、どれが正しいのか『正解』はないだけに困りました、しかし方向は示さねばなりません。しかし10月から厳重にコロナ対策をして練習出来るようになったことはうれしい限りです。